

12 月です。「もういくつ寝ると。。。」ですね。お正月の支度に追われそうです。

/// I N D E X ///

- ・ ISO 関連解説-----ISO14064-1 の改訂
- ・ LCA の実務 mini 36---石油由来原料をバイオ由来原料に変えるときの CO2 排出量削減
- ・ LCAF からお知らせ---・ 稲葉が内閣総理大臣賞を受賞しました。
 - ・ ソーシャル LCA の特別セミナーを行いました。
 - ・ [再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。
- ・ 感想文 (書評) を募集中です。
- ・ 編集後記-----お酒の事

■■ ISO 関連解説 : ISO14064-1 の改訂 ■■

ISO14064-1 の改訂が SC7/WG4 で始まってすぐに、この改訂は GHG プロトコルが主導することになったので混乱が続いています。10 月 25 日から 11 月 1 日までカナダ・トロントで ISO/TC207 の総会がありましたが、規格の中身の議論ではなく、GHG プロトコルの作業への対応に終始しました。

まず ISO14064-1 は一つの規格ですが、GHG プロトコルでは①Corporate Standard、②Scope3、③Scope2、④Actions and Market Instruments という 4 つの文書 (規格) を発行する作業が続けています。そのそれぞれに ISO 側から 3 人の委員 (合計 12 人) を受け入れることになっていますが、その選定をどうするかがまず議論になりました。結局、ISO に参加しているそれぞれの国が 4 人の委員を推薦し、その中から派遣する委員を WG4 で決めることになり、日本の国内委員会もその選定を急いでいます。ISO は国としての参加なので、こういう作業になりますが、GHG プロトコルの委員の選定には国が関与していません。ガバナンスが全く異なる二つの組織が一緒に作業をすることができるのか、SC7/WG4 の中にも不安が広がっています。

その不安を象徴するできごとが、SC7/WG4 の議長のフランスの Romain Poivet 氏の辞任です。彼とは長い付き合いなので、個人的にメールで辞任の理由を聞きました。「50 人以上の世界各国のエキスパートの意見をまとめる努力をしてきたのに、12 人を GHG プロトコルに送り込んでおしまいというのは、議長としての責任を果たせないからだ」と言っていました。トロントでの WG4 のあと、後任の立候補と選挙が行われ、Romain Poivet 氏と同じフランスから新たな議長が選任される見込みになっていますが、さて、SC7/WG4 で何を議論するのか、誰にもわからない状態になっています。

この混乱がどう収まるか、新しい議長と SC7/WG4 のエキスパートが何を決めるのか、しばらくは予断を許さない状況が続きます。

■■ LCA の実務 mini 36 : 石油由来原料をバイオ由来原料に変えるときの CO2 排出量削減 ■■

最近、「石油由来原料をバイオ由来原料に変えたので CO2 排出量が少なくなったと言いたい」というご相談が多くなってきました。「バイオ由来原料の CO2 排出量をどのように算定しましたか？」と聞くと、「サプライヤーから証明書をもらっている」というケースが多いのです。

まず確認したいのは、①その証明書は、バイオマス由来の炭素分をすでに差し引いて計算しているのではないですかということです。この場合は、ISO14067:2018 ではバイオ由来原料が燃焼される時、すなわち、バイオ由来原料を使った製品が廃棄される時に CO2 排出量を加算しなければなりません。バイオマスが大気中の CO2 を固定した時にマイナス (負) で計算して、それが燃焼される時にプラス (正) で計算するので、カーボンニュートラルになるのです。つまり、バイオ由来原料を使って CO2 排出量が少ないということはできますが、同時に、それを使ってできた製品の廃棄で CO2 が発生することを言わなければなりません。

次に、②サプライヤーの CO2 排出量は自社での燃料消費による CO2 排出量と電力の消費による CO2 排出量だけになっていないかということです。すなわち、バイオ系原料の CFP が ISO14067:2018 に準拠して計算されていない可能性があるということです。

最後に、③その証明書に「マスマンモデルを適用した計算による」とされていないか確認してください。最近、マスマンモデルを適用した製品が販売されるようになっています。そ

の場合は、マスマンモデルを使った結果であることを下流の顧客や消費者に正確に伝える必要があります。マスマンモデルについては、LCAF 通信 No. 90 などを見てください。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○稲葉が内閣総理大臣賞を受賞しました。

12月2日（火）に首相官邸で、令和7年度産業標準化事業表彰の内閣総理大臣表彰を授賞しました。ライフサイクルアセスメント（LCA）やカーボンフットプリント（CFP）に関する長年の標準化活動への功績が受賞対象になりました。ISOの動きはとても早いので、それをフォローし、また日本の活動を反映させるのはとてもたいへんですが、少し報われたように感じうれしく思っています。今後も皆さんと情報を共有する活動を続けてゆきたいと思います。

○ソーシャルLCAの特別セミナーを行いました。

12月3日（水）にドイツのグリーンデルタのKirillさんを囲んでソーシャルLCAのセミナーを行いました。現地参加が8名、オンライン参加が16名でした。どちらも大学からの参加が多く、ソーシャルLCAは、日本ではまだアカデミアの研究ターゲットなのかもしれません。しかし、海外には、社会的影響を軽視したことが企業の存続にかかわる重大事になった例もあります。LCAFでは、カーボンフットプリント（CFP）だけでなく、さまざまな環境側面の評価、さらに社会的側面の評価の世界の状況をウォッチしてゆきます。

○[再掲です] グリーンウォッシュの本を和訳しました。

・「地球にやさしい？一偉大なるグリーンウォッシュ」が丸善出版からでました。3,190円（税込）です。国連職員などを経て、現在オーストラリアに住んでいる John Pabon 氏の「THE GREAT GREENWASHING」を私が和訳しました。

・書評（感想文）を募集中です。まだ1件しか来ていません。ご協力をお願いします。

○[再掲です] 新しい参考図書「基礎から学ぶLCA～LCAの実施と活用～」を発行しました。

以下からお申込みください。（3,000円＋税＋送料）です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

■■ 編集後記：お酒のこと ■■

幼いころ一升瓶を抱えた祖母と一緒に酒屋に日本酒を買いに行ったことを覚えています。当時は二級酒と一級酒があり量り売りでした。酒屋は立ち飲み屋も兼ねていたようで、いつも大声で喧嘩をしている男たちがいました。そういう時代でしたね。

私自身の酒は、4人部屋の予備校の寮で寝られないときに、布団の下に隠しておいたトリスを瓶の蓋に一杯飲むことから始まりました。大学に入ってすぐにクラスコンパというところで飲酒の訓練が始まりました。最近はありませんでしたが、大学生が急性アルコール中毒になるあの訓練が昔は当たり前のようがありました。沖縄が返ってきた年で南沙織が人気でしたね。母はビール一辺倒、父は酒が弱い人だったので、私も酒は強くなくまた好きでもなく、また酒に使う金銭的余裕もありませんでした。

それでも博士課程修了まで大学に9年もいる間に人並みには飲めるようになりました。当時はカラオケがなかったので、研究室のコンパではアカペラで歌いました。最後は、沢田研二とキャンデーズでしたね。

つくばの研究所に勤務していたころは、酒は酒屋に配達してもらうのが普通のことでした。エレベーターがない官舎の4階までビールのケースを運ぶのは酒屋もたいへんだったと思います。酒屋がお歳暮を持ってきたことがあります。一升瓶の醤油でした。醤油をそんなにもらっても困りますね。

アメリカの安い缶ビールは薄かったです。ワシントンDCの近郊にいましたが、カルフォルニアワインの白をガロン（約40）瓶で買って飲んでいました。ウィーンにいたときも白ワインでした。近郊の農家に白ワインの買い出しに行きました。この時のドイツ語は「イッヒ メヒテ ブロビーレン ビッテ（試飲できますか？）」。

結局、高価な酒を飲んだことがないことに気づきました。ウィーンではホイリゲ（ワイン農家の飲み屋）をはじめ、どこのレストランでもその年の白ワインですので、ワインを選ぶという習慣すらありませんでした。飲めれば良いという生活でしたね。私自身は酒にこだわりはありませんが、ワインでも日本酒でもこだわりがある人の講釈を聞くのは大好きです。聞いてもすぐに忘

れてしまいますが。

「稲葉さん、健康寿命というのを知っていますか？」と医者に言われ、酒をやめてもう 8 年になります。やめようと思ってから 1 滴も飲んでいないのが自分でもえらいと思います。正直に言うと、ここまで飲んでいないのを破って飲み始めるのはもったいない気がして再開できません。

寒くなってきました。日本酒はどうも体に合わないと思っていましたが、寒くなると甘口の菊〇〇の熱燗が無性に懐かしいです。こたつとみかんと甘口の日本酒、歌は「あなたかわりはないですか、ひごとさむさがつのります。。。』ですね。今年はスキーに行きたいです。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構

Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)

(エルカフと呼んで(読んで) ください)

〒160-0022 東京都新宿区新宿 1-10-2 渡辺ビル 5 F

電子メール : a.inaba@lcaf.or.jp

電話 : 090-1423-0863

URL: <http://lcaf.or.jp/>